

第2回

島田市まち・ひと・しごと創生市民会議

令和元年11月19日

会議要録

令和元年度 第2回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議 会議要録

会議体の名称	令和元年度 第2回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議	
事務局(担当課)	島田市市長戦略部戦略推進課	
開催日時	令和元年11月19日(火) 10:00~12:00	
開催場所	島田市役所4階第3委員会室	
議題	<協議事項> (1) 第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について <情報提供・意見交換> 【情報提供】島田高校の取組(前回市民会議後の状況について)	
出席者	創生市民会議 構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島田市自治会連合会 伊藤会長 ・ 島田青年会議所 木村理事長(欠席) ・ (株)FMしまだ 八木社長 ・ 島田市小中学校PTA連絡協議会 杉本会長 ・ NPOクロスメディア島田 大石理事 ・ 島田商工会議所 大久保会頭 ・ 島田市商工会 岡村会長 ・ 島田市観光協会 村田副会長 ・ 島田市農業経営振興会 仲田会長 ・ 島田樟誠高等学校 杉本校長 ・ 島田市校長会 池谷会長(第二中学校校長) ・ 島田掛川信用金庫 三浦理事 ・ 島田・榛北地区労働者福祉協議会 鈴木会長 ・ 島田公共職業安定所 井谷所長 ・ 静岡県立大学(学生)大池穂乃佳(経営情報学部4年) ・ 県立島田高等学校(生徒) 片川拓巳(欠席) ・ 県立島田高等学校(生徒) 植田勝也(欠席) ・ 島田市 染谷市長
	オブザーバー	静岡県中部地域局 塚本局長
	事務局	島田市市長戦略部戦略推進課 駒形課長
	市関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 牛尾副市長 ・ 濱田教育長 ・ 鈴木市長戦略部長
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議構成員 ・ 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議席次表 【別紙】第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について 【資料1-1】島田市人口推計及び目標人口との比較 【資料1-2】第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略概要(案) 【資料1-3】第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案) 【資料2】高校生が地方創生のためにできること 	

<開会の挨拶>

○市長戦略部長 皆様、御多用の所、御出席を賜り、誠にありがとうございます。本日の司会をさせていただきます島田市市長戦略部長の鈴木と申します。よろしく願いいたします。それでは、定刻となりましたので、ただ今から、「令和元年度第2回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を開催させていただきます。

それでは、はじめに染谷絹代島田市長から、御挨拶を申し上げます。染谷市長よろしく願いいたします。

○染谷市長 皆様、こんにちは。市長の染谷でございます。本日は御多用の中、第2回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。

開会にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。この会議は、本日が今年度第2回目の開催となります。前回、8月28日に開催した際には、島田掛川信用金庫とハローワークの取組「島田モデル」を動画にした島田工業高校の活動や、島田高校の生徒の皆さんからの地方創生に向けた提案、また、島田樟誠高校の「志太カルタ」の取組など、高校生による地域貢献活動について多くを聞くことができ、これからの島田市を担う若者の存在を本当に頼もしく思いました。

平成30年3月に、島田市と市内5つの高校、そして市内3つの経済団体にて包括連携協定を締結しました。これは、「地域総がかりの教育環境の実現」に向けて、教育や地域産業振興、人材育成、まちづくりなどの各分野が協力・連携することを目的とするものです。

また、高校時代に地域に関わる体験をすることが、島田に根っこをもつ優秀な人材をつくることにも繋がると考えております。

このようなことから、市といたしましても、今後も高校生の地域への取組に対しまして支援してまいります。

さて、本日の会議では、令和2年度からの5年間の主要な施策を定める「第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の現在の案について、皆様から御意見を頂戴したいと思います。

会議後半には、前回会議にて提案のあった島田高校の地方創生の取組について現状を御報告したのち、構成員の皆様との自由な意見交換の時間とさせていただきます。

本日は、様々な観点からの御意見や御提言をいただき、有意義な会議となりますよう、皆様のお力添えを賜ることをお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

○市長戦略部長 ありがとうございます。今回会議から構成員が変更となっている団体がありますので、ご紹介いたします。

前回まで観光協会会長として出席していただいていた大久保節夫様が11月1日より島田商工会議所の会頭に就任いたしました。今回会議から島田商工会議所会頭として出席していただいております。また、島田市観光協会は、今回会議から副会長の村田共績様が御出席していただいております。どうぞよろしく願いいたします。

村田様につきましては、新たに構成員となられておりますので、御挨拶をお

お願いしたいと思います。村田様よろしくお願いいたします。

○観光協会

挨拶

○市長戦略部長

ありがとうございました。

本日の会議の出席者につきましては、出席者名簿を配付しておりますので、御確認いただきたいと思います。

なお、本日は、島田高校 片川拓巳様、植田勝也様が授業により欠席となっておりますので、お知らせいたします。

それでは、次第に沿って早速、議事に入っていきたいと思います。議事を進めるにあたりましては、「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議設置要綱第3条に基づきまして、議長を染谷市長にお願いしたいと思います。染谷市長、お願いいたします。

<議事（協議事項）（1）>

○染谷市長

それでは、しばらくの間議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

早速議事に入ります。本日の議事は、島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）に関する協議事項となります。

島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について事務局から説明をお願いします。

○事務局

別紙、資料1-1、資料1-2、資料1-3の説明

第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について、説明した。

・これまでの経過

・目標とする人口

・基本方針

・4つの基本目標の中で新しい視点で追加した施策等

○染谷市長

ただいまの説明について、質疑、御意見等はありませんか。

○A構成員

資料1-3、29ページの「コンパクト・プラス・ネットワーク」について、詳しく説明してほしい。

○事務局

医療・福祉・商業などの都市機能や居住を地域の拠点に誘導し、拠点間をネットワークで繋げることで、人口減少が進む中でも市民生活の利便性を維持していくことです。

○A構成員

医療や福祉事業について、具体的なイメージはありますか。

○副市長

島田市は中山間地域があります。コンパクトというのは、まとまって住むということで、誤解を生じやすいのですが、それぞれの地域に拠点を作っていくと考えています。

人口減少社会において、よく言われる密度経済という概念があります。同じ行政サービスを提供するためには、まとまって住んでいただいた方が効

率的にサービスを提供できる。密度を一定程度維持して住んでいただいた方がいいという考え方です。例えば、コンビニエンスストアは周辺人口として 3,000 人くらいないと経営が成り立たないと言われています。病院も同じです。それぞれの場所に全ての機能が揃うことが理想です。しかしそういう状況にはなりえないことから、本市は 3 つの自治体が合併して 1 つになりました。このため、文化施設などそれぞれの地域にあります。これもだんだんと集約していかなければなりません。それぞれがバラバラになってはいけませんから、その地域を公共交通機関で結んでそれぞれの地域での生活が円滑に進むようにするという事です。

拠点については公共交通だけではなく、民間インフラも含めて生活雑貨を買うような場所、ガソリンスタンドも地域ごとにないといけません。医療については全地区に網羅するという事はなかなか難しいかもしれませんが、必要な拠点に必要な機能をおいて、交通インフラでつないでいく。今の時代ですから通信インフラも含めて整理し、それぞれの拠点を結んでいくというのがコンパクト・プラス・ネットワークの考え方です。

○A 構成員 つまりどこかに固めるイメージではなく、島田市は広いわけですから全体を網羅しながら公共交通インフラも含めながら全体をネットワーク化して繋ぐ。どこかに集約するというイメージではなく、密度経済という観念を入れながら利便性を高めていく全体のことを言っているのですね。

○市長 緩やかに集約していきたい。川根には川根の拠点が、金谷には金谷の拠点があり、それらをネットワーク化して結んでいく。
密度経済の話がありましたが、やはりある程度固まっていなくて生活に必要な民間のスーパーや喫茶店なども進出してこない。人口密度をある程度維持することによって生活の利便性を確保していきたいということでもあります。

○B 構成員 今、色々な説明を聞かせていただいて必要なことは分かりました。先日副市長も参加されていましたが、文化芸術推進計画の審議会に参加しました。今回の説明の中で、この計画との関わりが少し見えなかったのですが、今後の総合戦略を進めていくにあたって、この文化の視点というものも必要ではないかと考えています。多文化共生や Society5.0、このあたりの視点ももちろん必要だということはわかっておりますが、同じように文化芸術が発想力といったところに重要ではないかと思っています。そのような視点を今回の総合戦略に盛り込んだ方が良いのではと思いました。

○事務局 ご意見ありがとうございます。文化芸術推進計画は意識して、施策として盛り込んであります。資料 1-2、13 ページ「大井川川越遺跡や諏訪原城跡神社仏閣等の国県市指定文化財を有効活用する魅力ある新たな観光分野として成長させていく」。こちらは事務局として文化芸術推進計画との整合を図ったものであります。

○B 構成員 先日お話を聞いた中では、文化を観光にとの話がありました。自分としてはそれよりも根っこに近い部分として、文化に関する意識というものが島田には、息づいているのではないかと考えています。

島田市として文化を観光にという考えであれば、それに進んでいただければと思いますが、もう少し市民レベルとしての発想も重要じゃないかと思っています。

○副市長

少し補足させていただきます。今日の資料1-2 概要版をご覧ください。こちらの左側に「まち」「ひと」「しごと」という基本的な考え方が3つ書いてあり、4つの色分けがされています。現在色々な計画を見直し中でありまして、最も上位の計画として島田市の総合計画というものがあります。その下に文化芸術推進計画や「コンパクト・プラス・ネットワーク」の都市計画マスタープランがあります。この他、中心市街地の活性化を謳った中心市街地活性化基本計画など総合計画を支えるいくつかの個別計画があります。今回皆様にご議論いただいているのは、その中の1つ「まち・ひと・しごと創生総合戦略」でございます。その中で概要版の一番下の所に緑色の部分「まち」というものがあります。ここを色々書き込む形になるとかなり総合計画に近い形になってきます。人口減少社会において最近が一番下に書いてありますSDGsという考え方が出てきております。人口減少問題を切り口に総合戦略をやっていますが、一方で経済対策というものが大きな目的となります。一番上の「しごと」という部分で、持続可能な島田市にするために限られた資源をどう活用して、仕事で稼いでいくかということもこの総合戦略の大きな目的になっています。その構成要素の中で、文化財保護法の改正のとおり、文化財をできるだけ活用していこうとしています。ご指摘の通り総合戦略の中では、十分な書き込みがしていないという形にはなりますが、ご参加いただいた文化芸術推進計画の中で具体的な書き込みの方をできるだけしていくような形を考えていきたいと思っております。全体感としてこのような形になります。

○〇構成員

根本的なところになってしまうかもしれませんが、これから人口が減っていくことが社会問題となっており、また高齢者が増えていくということで、社会保障費の増加により日本の構造自体のことでお金が枯渇していく。消費税も10%に上がりましたが正直これで足りるのか、社会保障を色々な税金で賄っていくのは大変だということは皆さんも分かっているかと思っております。その中で先ほど言われたコンパクトシティという考え方ができるかと思うのですが、そういう中で何とか地域を活性化させようという努力をされていると思います。この辺りのことは根本的な活動として皆さんやってらっしゃいます。そういう中でコンセンサスをどのように取っていくのか、ということが大事になってきます。その時にインフラを整備することも大事です。また、先ほど言われた病院や商店などの集客要素を拠点に持つことで人が移動して住まざるを得ないことに直結していくと思います。そのコンセンサスをどういう風にとりながら進捗率を上げているのかなというのは早めに伝えていく必要があると思います。それと、もう一つが外国人労働者についてです。この部分をもう少し手厚くした方がいいのではないかと思います。ラグビーワールドカップに見られるように日本も多国籍文化になっているかと思っております。このように日本に住む外国人に対する支援について、もう少し考えた方がいいと思います。同時に日本の方が海外へ出て行く時代に入っています。ここに住み続けるということではなくても、海外へどんどん出て行って

います。それは市外県外に限らず国内を飛び出して海外へ出て行っています。そういう視点を持ちながらつくり上げていくということも大事じゃないかなと思っています。この辺りが、現状を見つめた中で感じているところです。

○事務局

まず外国人についてのことです。島田市の人口のうち 1.31%が外国人という形になっています。そのほとんどが初倉地区に集中しております。実際の初倉地区の対応ですが、戦略推進課が地区の中に入って自治会の方とお話をしています。まだ具体的などころまで行っておりませんが、できるだけ自治会活動に参加していただくことが第一だと言うことが地元からの意見として挙がっております。そこを大事にして方向性を示していきたいと考えています。続いてコンセンサスの話ですけども、正直難しい話だと思っています。この計画自体はパブリックコメントによって市民の方に知っていただくことで、周知を図っていく形をとっております。実際に地元地域の中に入っていくということは、先ほど牛尾副市長の方でお話がありましたけれども、各計画の所管課が実際に計画を説明して地元に入っていきやすいような形になると思います。できるだけ地元の方に理解をしていただけるような形で、タウンミーティングを開催するなどして丁寧な説明をしながら進めていきたいと考えております。

○市長

この件は市内の一角に拠点を作ってそこに集めるということではありません。現在立地適正化計画というものも都市計画マスタープランとともに策定作業を進めております。これはそれぞれの地域においてどこが地域の拠点になりうるか、ということを検討しながらその地域の拠点に行政機能を集約していくことで市民の利便性が高まるようにして、その周辺に住宅地が広がっていくようにしていきます。実際には住む場所を変えるということは世代が交代する時期くらいしかありません。住み慣れた地域に住み続けていただくということは非常に大事なことであり、それに対する政策を進めていくのですが、一方であまりに密度が薄くなってしまうと経済活動も成り立たなくなってしまう、行政サービスも効率性が落ちていきます。そうした意味で縮みながらもこの地域の生活の利便性を維持できるようにしていくという意味では人口密度を維持していくということや、密度経済の考え方というのが必要になってくると思います。合併をして三つの自治体が一つになった島田市ではありますが、それぞれの良さや特徴を生かしながら進めていくということです。そこを無視して移り住んでもらってまで中心を作っていくような考え方ではありません。そこは御理解をいただければと思います

○C 構成員

私もその辺りのことはわかっております。今市長がおっしゃられたビジョンというものをできるだけわかりやすく示すことによって地域も主導的に考えていくのではないかなと思っています。このようなお考えが既にあるのであれば、早めに課題提起のような形で市民や地域に考えてもらうきっかけを与えるようにしてもいいのではないかなと思っています。

○D 構成員

資料 1-3 の冊子の 14 ページ 15 ページになりますが農業のことが書いてあります。この部分に土地改良事業の推進の記載がありますが、島田市の基幹産業であるお茶や農業ですが、リニアの関係で大井川の流量が減るのではない

かという問題があります。畑総事業によって水の供給というのが土地改良区で大きな計画であるとともに、私たちの農業を支えています。お茶から展開して野菜を作るという農家も出てくるかもしれませんが何を作るにしても農業にとって水というのは欠かせない。それを支えている土地改良区の切実な問題がクローズアップされていることは市長もわかってくださっていると思います。人口減少もそうですが、農業の担い手も非常に減少している中で、あの命の水、畑総事業というものが守られなくなってしまう時の担い手の人たちの行く末というのは本当に悲惨なものになってしまうと思います。このようなことがこの総合戦略の中に書かれていないので、畑総事業の具体的な将来について、この総合戦略の中に少し触れていただくと嬉しいなと思っています。

○市長 畑総事業の現実というのは非常に厳しいものであり、大変に深刻であります。担い手の減少や耕作ができなくなっている人たちが増えているということ、一方で施設の老朽化が進んできているということ、その更新のために多額の費用がかかるということ、そしてもうひとつ、最近抱えている課題として、水利権の問題があります。この課題を十分に認識し、どのように解決していくかということは非常に重要なことであるとは思いますが、総合戦略の中にそのことを記載するかということについては、少し違う観点もあるかと思えます。

○事務局 この総合戦略は「しごと」と「ひと」の好循環、それを支える「まち」の活性化という視点で書いております。この基本目標1の部分「日本で、世界で、稼ぐ産業の創出」ということで、その中に農業のことが含まれていますが、あくまでも「しごと」をつくる、という視点でこの総合戦略においては農業を位置づけております。ただいま委員から意見をいただいた件については年明けからスタートさせる総合計画策定作業の中でしっかりと考えていきたいと思っています。

○D 構成員 仕事イコール稼ぐという問題の中にこの畑総事業というものは、切っても切れないものだとは私に思っております。また検討していただければありがたいと思えます。

○市長 委員の思いは、私も十分に理解しているところですが、その一点特化した記述をするということも、なかなか難しいことがあります。これはあくまでも島田市の総合戦略ということで、雇用を生み出して未来への好循環を生み出しているというような組み立てで記載し、策定しているものです。総合計画や地域ごとの地域計画そういったものの中に今御指摘いただいた視点を活かして参りたいと思えます。

○市長 委員の皆様からいただきました御意見につきましては、担当課にて整理を行い、今後の第2期総合戦略策定作業に生かしていきたいと思えます。

続きまして、次第の4「情報提供・意見交換」に移ります。
はじめに、前回の市民会議で提案をいただいた島田高校の現在の状況について

て、情報提供を行います。

その後、皆様との意見交換の時間としたいと思いますが、報告に対する感想、皆様の活動報告等、自由な意見交換の時間としたいと思いますので、積極的なご発言をお願いいたします。

それでは、まず事務局から説明をお願いします。

○事務局

別紙、資料2 島田高校の取組について説明

・経過前回市民会議後の状況について

○市長

ありがとうございました。

それでは、ここからは意見交換の時間としたいと思います。今の報告についての意見以外でも、皆様の個々の活動についての報告でも構いませんので、自由にご発言いただければと思います。

○E 構成員

一番大切な議題が人口減少というのがはっきりわかっており、統計的にもこのままいくと 2060 年には 6 万人ちょっとになってしまうということで、今日も、何とか 8 万人にしようといろいろな対策をやられていると報告がありました。このようなプランを立てて進んで行くことが非常に大事だということはよく認識をしています。

そういう中で、コンパクト・プラス・ネットワークというお話のとおり、ある程度、集約していくことが大切であり、そうしないと効率的にならないだろうと思うのと同時に、もっと極端に1つにしたらどうなのか、そのほうがもっと効率がいいかもしれないとも思います。色々な住民がいるから難しい所もたくさんあるだろうけど、長期的には1つのポイントを作っていくのが大事なのではないかと思います。1つにまとまっていけないと力も発揮できないし、人口が6割くらいになった時に色々なものが機能しなくなるだろうということは感じております。

そうすると、20年、30年の時間をかけないと無理だと思います。そういった大きなものがあってもいいのではないのかなという気がします。

また、自分たちの団体は、基本目標の中の「しごと、地域経済の活性化」というところに1番絡んでくるのかなと思います。

これから近々の課題としては、人口減少に対する人手不足対策で、外国人の労働者の問題もありますが、その前に、本当に人手不足かどうかを色々な角度で考えていかなければならないだろうと思います。仕事のやり方というのは、多くが昔からのやり方をされていると思いますが、人が足りなくなったからといって、いくら人を増やしても生産性は上がり、改善しなくてはならない。もう少しやり方を変えてITの技術を導入してみるとか、少しずつやっていくことによって、一つ一つの企業が元気になってより進んでいくのではないかと。そうするときっと儲かるようになり税金も入ってくる。いろんなことが活性化し、会員の皆さんが元気になる、そして総合戦略にいろんな意味で寄与していくと考え、取り組んでいきたいと思っています。

また、時代的にも今は大事なところに来ており、この計画自体はいいものだと思うので、しっかり組んで、しっかり進めていってほしいと思います。

○F 構成員

今のお話と若干関連していると思いますが、やはり企業が強くなってそこで働く皆さんが元気になるってことは、今後島田市としても非常に大切だと思います。企業を強くすることによって島田市に働く人も増え、まず、島田市が強くなると思います。

仮に藤枝とか焼津でアパートに住んでいる方が島田市の企業に働いていて、家をどこに建てようか考えたときに、島田市にいろいろな施策があって住みやすいまちであるならば、やはり島田市で、より会社の近くに建てようという方が増えてくるのではないかと。その辺を考えると、やはり住宅の施策とかを含めてこれから考えていただければ、より人口の増える一つの原因になるかなと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

○C 構成員

いまのお話のとおり企業に力があるというのはすごく重要です。そこに雇用がないとそこに住む必要がなくなってしまいます。

例えば、川根町はリーマンショック以降、急激に人口が減っています。その時に雇用の受け皿がなくなってしまい、働く場所がなかったり、利便性が非常に悪くなったりしてしまったり。または、お父さんが島田で仕事をして、お母さんが島田でパートの仕事をしていて、子供は島田の学校へ入るって話になると、なんで川根に住むのかってなってしまう。やはり、経済活動を守っていくというのが基盤であって、そのなかで文化活動も必然的に生まれてくるでしょうし、雇用というのでも生まれてくるし、自治体活動も活性化してくるのではないかと。企業にどれだけ尽力していただけるような施策をうつかということも大切だと思います。

また、私は川根地区、金谷地区、初倉地区が埋もれないように一生懸命、商工活動、経済活動のみならず地域振興などをお手伝いしながら、取組をしています。ただ、行政機関の中でこういう方針も出ており、数字的にも致し方ないということも分かっていますから、先を見た展開として、地域でもしっかり理解しながら、「私たちは何をやっていけばいいのか」ひしひしと考えています。

その中で、私たちはここで何の役割を持てばいいのか、現実論はそういった面で話し合いの場というのが、必要になってくるのでは、と感じました。

○市長

補足の説明ですけど、資料1-1で、目標人口の比較を出しています。この5年間の成果として、人口が2,000人上振れたというお話をさせていただきました。この中部圏で5市2町ありますが、5市2町のうち上振れたのは3自治体だけです。そのうちのひとつが島田市だったということにおいて、この5年間の総合戦略の取組の成果のひとつだと思います。

ただ、皆様方から御意見いただくことは、それぞれごもつともだと思いますし、これからはそういったことをいかに反映するかだと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○G 構成員

配布された資料2、島田高校の研修会の事務レポートを見てみると、島田高校の高校生から島田を知らないという意見が結構出てきます。これから若い世代が島田を背負っていくということになると、現在の中学生、高校生には島田を知ってもらわなければならない、こういうことに重点を置く必要があるかと思っています。特に中学生は中学を卒業後、地元の高校へ行く人もいる

と思いますが、市外の高校へ行ってその後、大学へ行って地元を離れてしまうということになると、生まれて15年間島田のことをあまり分からないまま、市外に出て行ってそのまま県外で就職してしまう。こういう風になると、島田に魅力があるから戻ってこようという気にならないというような生徒もいるかと思います。中学2年生の時に島田探訪ということで校外授業も入っておりますが、1、2回ということではとても少ない気がします。中学生において年間数回、議会を見学研修するとか、島田の市政について勉強会を開き市の幹部と意見交換をするなど、もう少し幅広く取り組んでいく必要があると思っております。そうしないと、中学生が島田を知らないまま大人になって大変つまらないことですので、こういう勉強が必要かなということはこのレポートを見て感じました。

○教育長

今お話があったように、中高生に島田市のことを知ってもらうことはとても大事なことだと思っております。教育委員会では「夢育・地育」の「地育」として取り組んでいる。「地育」というのは、地域を愛する子供たちを育てるということですが、そういう取組をしています。地域の教育力を生かした取組は年々充実してきていると思っております。初倉や六合などを見ても夏祭りや地域イベントに大変多くの中学生ボランティアが参加しています。募集すると応募した数よりもたくさんの方たちが手を挙げてくれるという状況もあり、地域への参加というのは増えてきていると思っております。そして、地域との結びつきは今まで以上に強まっていくと思っております。

もう一方、活躍する場があってこそ子供たちは地域との結びつきが強くなると思っております。参加しようと思っても参加する場がなかったり、参加しても活躍する場がなかったりしたら、子供たちの力は発揮できないし、結びつきも弱くなります。活躍する場をつくるということもお願いできたらいいかと思っております。

○H構成員

今年10月に島田大祭が行われ、台風の関係で開催日数も少なくなっていました。お祭りの関係で申し上げますと、私どもお祭りを続けていく中で、お金の問題と人が足りないことで、ずっと言われてきています。そういった大きい問題は、お祭りをやる側から努力をしていかないと、なかなか解決できない。

その一つの例として、私が所属している保存会では市内の要望があった学校に、授業時間にお祭り講座をしています。その中で単なるお祭りの話をするだけではなく、島田のお祭りの話をするということは、島田の歴史、大井川の歴史ということにも結び付くということで説明をし、今年は3校で行いました。そういう中で、頑張ってきて良かったという例が1つあったので、ご紹介させていただきたいと思っております。

今年9月に、六合東小学校から要望があり、お祭り講座に参加しました。話をするだけでは、子供たちが関心を持ってくれないので、保存会のメンバー10人から15人位が仕事を休んでボランティアで参加し、お祭りの道具を持って行ったり実演をしたりして、お祭り講座を組み立てて実施しました。終了後、保護者から保存会へ電話があり、島田のことをもっと知って勉強させたいから、うちの子供をぜひお祭りに参加させたいと連絡があり、今年の大祭に参加してもらいました。

子供たちを巻き込むには、やはり地域としても働きかけをしていかないとなかなか結び付かない。私どもは、こういう機会を通じて島田市に関心を持ってもらう。それが愛着心や郷土心に結び付けばいいなと思い、やっています。それがいわゆる、人口増に結び付くとか簡単にはいかないとは思いますが、とにかく息の長い活動というのは継続していくことが大事になっていうのを今回感じました。

- I 構成員 お話を聞いていて思ったのが、もちろん仕事や地域の人に支えられていくことも大切だと思いますが、出会いをして結婚しなければ今後、繋がってこないと思います。島田市の30代、40代の独身率、結婚していない方っていうのはわかりますか。
- 市長 資料ありますか。
- 事務局 確認します。
- 市長 今年行った市民アンケートにおいて、独身の方に「今後結婚する意思があるか」を聞いた項目の中で、約4割は「今後も結婚する考えはない」、約3割は相手がいらないなどの理由で「するかもしれないけど分からない」、「結婚したい」という積極的な意見は3割しかなかったわけです。
「いつ頃結婚したいか」の質問に対しては、女性のピークが30代、男性のピークが40代でした。特に41歳以降が多かった。その年代に結婚して、じゃあどれだけ子どもが産めますかということになると、難しい話だなと思います。思いが叶って、希望どおり結婚できたとしても、子どもが産めるかということ、社会全体が子供を産みにくくなっているということ、今年のアンケートで感じたところでもあります。
未婚率という調査は多分していない。ただ、島田は別の統計で持ち家率などを見ると県内一の持ち家率です。そして、平成30年度の空き家の実態調査では、賃貸のマンションやアパートを含めて空き家率は県内で2番目に少ない。その理由は、持ち家率が極めて高く、空き家になりにくいということ。また、私が思ったのは、津波等を恐れて結構内陸の方に越してくる方がいらっしゃいます。そういったことも影響しているのかなと思いましたが、結婚して暮らす人達は家を持って暮らす人が多いというのが島田の実態かと思いました。
- J 構成員 総合戦略の位置づけですが、総合計画があってこの総合戦略ということでしょうか。
- 事務局 総合計画の期間が令和7年度までになっており、目標人口は9万2,000人と、総合計画の中に書いてあります。この総合戦略については、総合計画の基礎となる人口目標の達成を補完するもの、そのように位置づけをしております。
- J 構成員 今後、金谷地区の賑わい拠点やアウトレット、庁舎跡地など観光分野として、これから注目する場所が増えてくる中で、もう少し観光協会の力が発揮されるような状態になったらいいと思いました。行政との連携や情報共有をもつ

と取っていかないといけない。また、地域を元気にする若い方、とくに若手経営者たちが島田市も結構頑張っておりますので、若い経営者たちと高校生たちの生の声を聞くことによって、このまちにこんな若い元気な方がいるということを皆さんに知ってもらえる、そんな機会があったらいいかなと個人的には思います。

○C 構成員

ボランティアの件で、高校生と絡んで私も今年一年いろんな事業をやらせてもらいました。そこで心掛けたのが、あくまでも彼らに考えてもらい、テーマを与えるなかでカリキュラムを作ってもらうこと。それによって、ものすごくボランティアっていう成り立ちが全然違ってきます。手が欲しいから彼らに来てもらって助けてもらう、という単純なボランティアの要望事項というのは、学校側もそれを意図していませんし、彼らの1つの仕事になってしまいます。ボランティアは、そこで得るものが一番重要だと思います。今年1年やってみて、彼らが作り上げたものは彼らの財産になるし、彼らの確実な武器になっていく。ボランティアの定義自体を、一緒に頑張るうえで考えていった方が良くはないかと感じました。

○市長

私も同感に思います。防災の分野においてもやはりそうです。子供たちが言われたことをやるだけでは、防災力は育ちません。子供たちにも参加ではなく、参画できるような仕組みを作っていただきたいと思います。

○K 構成員

感想を2点ほど述べさせていただきます。かつて、県の総合教育センターに在籍してました。そのときに静岡県のこれからの構想として2つ強く打ち出したものがありました。

1つは、アクティブラーニングです。これは、これから必要なもので、学習指導に沿ったものであり、全県進めなければいけないもの。

もう1つは、発達障害について、各学校において非常に大きな課題になっており、いかに対応するかということで、ユニバーサルデザインの考え方を生かした学校づくりということを提唱しました。

今回のこの総合戦略の中にこの2つが、記載されており、まさに、これからの時代の先取りではないかということで、大きく期待しております。具体的な中身はこれからになると思いますが、これらは、本当に大事なことなので、是非、積極的に推進していただきたいと思います。特に、他機関との連携等も重要なことになってきます。発達障害については、早ければ早いほど対応がいいと言われておりますので、この辺りを是非先取りしていただければと思っております。

2点目は、先ほど島田高校の活動の報告がありました。私は、仕掛けは縦、拡大は横と考えています。横の連携だけでスタートしても難しいです。中学校といわず小学校の時代から考えなくてははいけないし、その延長に高校があってこの活動に繋がると思います。そういう意味では、ほかの市も意識しながら、縦をみて、小中高と連携をとりながら、どういうビジョンになるかということがひとつ必要だと思います。それから拡大は横って言いましたけど、単発で終わったらひとつの高校だけの問題で終わってしまいます。この前も言いましたけど、それをいかに横の連携、高校間で繋げるかという仕掛けが必要ではないかと感じました。是非そういうイメージを持って展開していた

できれば、さらに充実したものになるかなと期待しております。

○L 構成員

みなさんのお話を聞いて、色々な感想を持たせていただきました。

1つ、コンパクト・プラス・ネットワークの話ですが、学校教育という立場から考えると、学校も例外ではないと思います。その中で、学校がプラットフォーム化して、学校を利用するというようなコミュニティスクールづくりがあるのかなと、考えていました。

いま、市役所の非常に多くの課が、福祉の関係、防災の関係、お祭りの関係、スポーツの関係等、様々な市役所の各課が学校に協力して欲しいということで、いろいろの事業をやってきています。それらは、全て教員が対応していますが、それを教員でない者が「コミュニティスクール」というプラットフォームを利用してやっていく方法はないのかなと思いました。お祭りにしても、地場産業との繋がりにしても、防災にしても、コンパクト・プラス・ネットワークの中の、コミュニティスクールや学校教育の側面での考え方というものについて考えさせられました。

2つ目に、本校には6か国の生徒がおります。本校はそれをメリットとして完全に捉えきれておらず、グローバル教育、文化教育のチャンスであるにも関わらず、人権教育も含め活用できていない現実があります。勉強の面、生活の面で正直苦労しています。問題としては、外国人の子供達に対する人的支援不足、もう一つは学校がそれをグローバル教育として生かしてないことの二つがあるのかなと思います。さらに、ALT も非常に大人数で他市に負けない体制ができたので、もっと、外国籍児童生徒への支援ができないかとか、学校教育の中の多文化交流や人権教育として活用していかなければならないと思いました。生かしてないのかなと思いました。

3つ目に、高校というのは、自分の目標に向かって大学へ行く者、就職する者が非常に多いわけで、島田市にこれだけたくさんの私立高校、公立高校があるというのは、すごい財産だと思います。これだけの高校があれば、市外から多くの生徒が来るわけで、そこで、市や企業が介入し、カリキュラムの中に将来の就職についてできることが増えれば、かなり大きな力になるのではないかと思います。これだけのさまざまな高校があることは島田の大変な魅力ではないかなと感じています。

魅力のある取組には、企業も無償で力をかしてくれます。

私は、著名な作曲家に金谷のSL駅から上流へ大井川鐵道をイメージした曲を作っていただいて、出版社の協力でゼロ円ベースでCDを全国リリースすることができました。

もうひとつ、働き方改革のなかで社会体育の流入を促進したいということで、島田市も支援しているMYFCの関係者と話をし、サッカー教室という名目で保険等についてもMYFCの方で全責任を持ち、毎月MYFCの選手が中学生を対象にしたサッカー教室を開催していくことが実現しました。

そういう魅力あるまちづくりっていうことに関しては、まず、第一に魅力の発掘です。二つ目に、土壌づくり。土壌づくりに関しては、行政も含めて作っていかなくちゃいけないと思います。三つ目に、コーディネートの橋渡しの必要性です。

魅力あるまちづくりについては、この三つがやはり非常に重要ではないかと思えます。何事もお金がなければできないと考えがちですが、3つの要素の

まちづくりをしっかりとやっていくと、自然と投資が促進され、企業や団体が進出してくるのではないかなと考えています。

○M構成員

仕事に関しまして最近の雇用状況を簡単に説明させていただきます。雇用状況の改善に伴いまして、人手不足が喫緊の課題ということで、皆さんご承知のことと思いますが、静岡県全国有効求人倍率が1.5倍台でずっと推移しております。これは、求人数が求職者を大幅に上回る状況が続いているということで、なかなか、従業員を募集される事業所に関しましては非常に重要な問題になっていると思います。この地域では、有効求人倍率が1倍前後で推移をしております。特に有効求職者におきましては、ずっと減少傾向が続いていました。これは、65か月連続で、ハローワークを利用する求職者が前年同月を比較して減少していたのが、この4月から連続して増加に転じております。4月から直近9月まで連続で増加してきています。対して、求人者、求人数については増加傾向で推移していたのが、直近2、3か月においては、減少してきているという状況でございます。海外経済の影響なんかもあって、求人が若干下振れしているという部分もありますが、地元の企業にとっては、求職者が増えて求人が減っているというのは、優秀な人材を確保するためのチャンスだと思いますので、地元の企業の情報というのを求職者に届けたい、特に商工会議所、商工会の管内の皆さんと連携をとりながら、やっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○N構成員

島田高校の取組についてですが、リーダーシップ研修会に関わるのと実際に、島田の観光地とかに赴いて、島田を感じてもらって、意識が凄く高揚してきているなと思います。このレポートの研修に参加したきっかけを見ると、結構、島田の観光にもともと興味があったというのが多く、興味を持って見守ってくれている人がこういう活動に参加してくれると思いました。でも、就職とか大学進学をきっかけで島田市から出て行ってしまいうのは、島田を知らないまま、高校生活を終えてしまうと思うので、興味が少ない層の高校生たちにもこういった機会を提供してあげてほしいなと思いました。生徒会の方からでもいいと思いますが、自分からこういう機会に参加しようと思っていない子たちにも、自然とこういう機会を受けるような学校の取組などがあったらいいと思います。

○市長

島田は高校生が就職する場合、外に出て行ってしまう場合が多いでしょうか。以前島田に留まるという人が大変多いと伺いましたが現実はどうでしょうか。

○M構成員

高校生の場合、県外、管外で就職される方は多くはないです。大学生になると、進学で東京圏へ行って帰ってこないというケースが非常に多くなってきますので、とにかく高校から地元の企業、工場があるけど中で何をやっているかわからない、そこに会社があるけど具体的にどういった現実があって、どういったことをやっているかわからない、仕事理解がないってことが、仕事探しの時に対象に入ってくない大きな要因かなと考えています。

(○事務局

説明(婚姻率について))

- D 構成員 来年は金谷茶まつりがありますので、もし、茶娘にチャレンジしたいという高校生がいましたら、衣装の貸し出しをしておりますので是非参加していただくようお願いします。
- A 構成員 資料1-2の一番下に、キーワードとしてSDGsが今回出てきていました。今後、島田市はSDGsについての宣言をしてなど、何か予定はありますか。
- 市長 SDGsの宣言をしているのは現在静岡と浜松だけであります。ただ、島田も、クールチョイスでありますとか再生可能エネルギーでありますとか、いろんな形で活用しています。これからのまちづくりに、地方創生にSDGsの視点というものは絶対欠かせないと思いますし、視点をしっかり政策の中に今後活かしていきたいと思っております。ただ、宣言をするかどうかについては、内部でもいろんな話をしておりますので、いまここでは、ちょっと決めていないというのが、正確なところでございます。
- 塚本局長 私は、仕事柄県内各市町の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を拝見することがありますので、そういった観点から、お話をさせていただきたいと思っております。島田市の今回の計画の特徴は、2つと思えました。
1つは、「つながり」という言葉を追加したように、中学生、高校生を生かした形でまちづくりをやっていくというところが、1つ特徴的なところかなということです。
さらにもう1つはもっと大きな特徴的だと思いますが、計画のところの、冊子の22ページからの3の「希望どおり結婚、妊娠、出産し、子供をまんやかに子育てする」の部分の記載が、他の市町の計画よりすごくいいということです。特に27ページの一番上の箱ところの最後のところですけど、「親力の育成を図る」というところは、非常に特徴があると思います。本当に、子育てについて喝破した書き込みだなと思います。3世代でやっていたときは、20代30代の若い親御さんにおじいちゃん、おばあちゃんが子育てを教えてくださいましたし、さらに20代30代の若い夫婦を育ててくれることもしてくれたという時代だったと思います。ただ、いま核家族化が進んでいて、若いご夫婦達が自分達でやらなければいけない時代になったと、そういう中であって、若い夫婦を孤立させないことが非常に重要になってきていることと思っております。最近、児童虐待の問題とか、全国各地で起きていますが、よく言われるのが、児童相談所と警察の連携だとか近所の人の見守りということがよく言われていますけども、厳しい言い方をすれば、これは対処療法でしかないですね、本質的には、そこには、子育てができない、子育てに困っている、なかなか子供に愛情を育てられない若い親御をどうしていくかということをしっかりやっていかないと、長い目で見ていったときに社会の力が落ちていたり、子供を育てていけないというようなことがあるのではないかなと思います。
そういった中で、このような政策はなかなか短期間で効果が出るものではなく、腰を据えてやっていかないとと思いますが、こういう政策が書き込まれているっていう島田の総合戦略は素晴らしいなと思っておりますし、こういったことが書き込まれていて、若い人たちにも意識していただければ、若い人

たちが島田市内の新しい住居を構えに、集まってくるというような街になってくるのではないかなということを感じた次第であります。

○市長

ありがとうございます。まさに、「親育て」のところはですね、島田の特徴でありまして、今年から「島田版ネウボラ」という北欧でやっている制度を導入しています。母子手帳をもらいに来てくださった方に「あなたの保健師は、担当この人ですということ、連絡先や名前、そしてできれば、その場で面会させていただいて、子育ての悩みだけではなく、あらゆる課題について、その保健師がその家庭に寄り添うという支援を始めました。これは、親が親になるための様々な功罪を導き出すということもでございます。それから、虐待などは幼稚園、保育園にあがるまでは、なかなか見つけにくいということもでございます。保健師が家庭に入る、そして助言をする、頼りにするということがあるということだけでもお母さんにとっては、心強いことかなと、思っておりますので、こうした政策については子育て支援全般の中で、特に力を入れてやっていくという予定です。

○市長

ありがとうございました。
まだまだ、御意見は尽きないかと思いますが、予定の時間となりましたので、本日はここで終了したいと思います。
皆様のご協力により、本日の議事につきましては、無事終了いたしました。
ありがとうございました。
それでは、会議の進行を事務局へ戻します。

○市長戦略部長

ありがとうございました。
最後に、次回、市民会議の予定ですが、本日の次第、「その他」欄にも書いてありますが、3月18日（水）午前10時00分から、この会場での開催を予定しております。
委員の皆様には、近くなりましたら、改めて御連絡をさせていただきます。

それでは、以上をもちまして「令和元年度第2回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を閉会とさせていただきます。
本日は、御多用の中、御出席いただきまして、ありがとうございました。お気をつけてお帰りください。